

【参考図版・挿図・参考資料篇】

論文題目 日本彫刻史における邪鬼の造形変遷と思想背景

―中国・朝鮮半島の造形の選択的受容と四天王護国思想との関係から―

学籍番号 1313925

氏名 山田 美季

## 凡例

- ・ 本篇は、本文篇「日本彫刻史における邪鬼の造形変遷と思想背景―中国・朝鮮半島の造形の選択的受容と四天王護国思想との関係から」に対応する。
  - ・ 参考図版は主題およびそれに準じる重要作例について、本体の正面全図および邪鬼の多角的な角度の全図を中心に掲載する。
  - ・ 本篇は各章に対応し、参考図版、挿図、参考資料の順番に配列する。参考図版は「参(章番号)―(図番号)」、挿図は「挿(章番号)―(図番号)」と表記し、図番号は章ごとに振り直す。参考資料は「資料(番号)」と表記する。
  - ・ キャプションは、次の順で記載する。
- 図版番号、所在地の都道府県名・所在地名あるいは所蔵者名、作品名(制作年代、作者名)

目次

第一部	造形の受容と展開	1
第二部	四天王護国思想と造形の選択	9
	―古代―	3
	―中世―	9
第三部	淘汰された造形の再出現、造像背景の多様化	12
	―中世―	9
結論		20
参考図版・挿図目録／出典		21

第一部 造形の受容と展開

## 第一章 編年の方法と手順

[ 非公開 ]

## 第二章 中国、朝鮮半島における神将像足元の鬼神表現の成立と変遷

[ 非公開 ]



### 第三章 日本における邪鬼の編年と問題の所在

[ 非公開 ]





第二部 四天王護国思想と造形の選択  
― 古代 ―

[ 非公開 ]



資料1 西大寺四王堂四天王像・邪鬼の持物構成（現状と復元案）

			現状	復元案	
				私見	松本
持国天像	本体	左	刀柄	太刀	刀
		右			
		腰			太刀
	邪鬼	左	※	金銅杵	太刀→金銅杵
		右			
増長天像	本体	左			言及なし
		右	金剛杵	金剛杵	言及なし
		腰		太刀	太刀
	邪鬼	左			太刀→金銅杵
		右	小孔あり	金銅杵	
広目天像	本体	左		卷子	卷子
		右		筆	筆
		腰		太刀	太刀
	邪鬼	左			太刀→金銅杵
		右	小孔あり	金銅杵	
多聞天像	本体	左	宝塔	宝塔	宝塔
		右		金銅杵	金銅杵
		腰		太刀	太刀（2本）
	邪鬼	左	※	金銅杵（石突き）	太刀→金銅杵
		右			

資料2 藤原是公官歴

和暦／西暦	月	事項（続紀）
神亀4〔727〕	—	武智麻呂の孫、乙麻呂の第一男として生まれる〔享年より逆算〕。
天平宝字5〔761〕	1	従五位下に叙位。
	—	神祇大副に任ぜられる。
天平宝字6〔762〕	11	伊勢大神宮奉幣使に任ぜられる。左勇士佐に従事する。
天平宝字8〔764〕	10	播磨守に任ぜられる。
	11	山背守に任ぜられる。
天平神護1〔765〕	1	従五上に叙位。
	2	左兵衛佐に任ぜられる。
	9	左衛士督に任ぜられる。是公に改名か。
天平神護2〔766〕	2	従四位下に叙位。
	10	従四位上に叙位。
神護景雲1〔767〕	7	内豎大輔に任ぜられる。左衛士督、下総守を兼官。
神護景雲2〔768〕	11	侍従、内蔵頭を任ぜられる。
	12	内蔵頭、侍従、下総守を兼官。
宝亀4〔773〕	1	正四位下に叙位。
宝亀5〔774〕	3	春宮大夫、左衛士督、式部大輔を兼官。
	5	参議に任ぜられる。
宝亀8〔777〕	1	正四位上に叙位。
	10	参議、左大弁、春宮大夫、左衛士督、侍従を兼官。
宝亀9〔778〕	2	左大弁、春宮大夫、左衛士督、大和守。
	6	広瀬・竜田二社奉幣使を任ぜられる。
宝亀10〔779〕	1	従三位に叙位。
天応1〔781〕	4	正三位に叙位。
	6	式部卿、中衛大将に任ぜられる。
	9	中納言に任ぜられる。
延暦1〔782〕	6	大納言に任ぜられる。
延暦2〔783〕	7	右大臣、中衛大将を兼官。
延暦3〔784〕	1	従二位に叙位。
	閏9	田村第に行幸。第三男従五位下に叙位。
延暦4〔785〕	6	百官を率いて、慶瑞の表を上る。
	9	平城行幸。
延暦8〔789〕	9	是公、没。従一位に叙位。

第五章 東寺講堂四天王像多聞天の足元形式と鎮護国家思想 -唐代密教の影響-

[ 非公開 ]





[ 非公開 ]



第三部 淘汰された造形の再出現、造像背景の多様化  
―中世―

はじめに

[ 非公開 ]



第七章 當麻寺金堂多聞天邪鬼の支える造形について

[ 非公開 ]



第八章 願成就院毘沙門天像邪鬼の武器を握る造形について

[ 非公開 ]





第九章 慈尊院四天王像邪鬼の武器・蛇を握る造形について

[ 非公開 ]



## 結論

結論

[ 非公開 ]

## 参考図版・挿図目録

### 第一部

#### 第一章

挿1-1 感恩寺址東塔舍利容器四天王像多聞天、同瑞獸（統一新羅・神文王2年〔682〕頃）

挿1-2 神徳寺石函四天王像広目天、同瑞獸（隋・仁寿4年〔604〕）（拓本）

挿1-3 東京国立博物館蔵（川端家旧蔵）毘沙門天像左方邪鬼（応保2年〔1162〕）

#### 第二章

挿2-1 敦煌莫高窟第427窟 前室 天王像、同鬼神（隋〔581～618〕）

挿2-2 敦煌莫高窟第322窟 西壁外龕 二天像、同鬼神（初唐〔618～712〕）

挿2-3 敦煌莫高窟第380窟 東壁北側 二天像、同鬼神（隋末初唐〔6世紀末～7世紀初め〕）

挿2-4 敦煌莫高窟第45窟 西龕 二天像、同鬼神（盛唐〔712～781〕）

挿2-5 敦煌莫高窟第46窟 西龕 二天像、同鬼神（盛唐〔712～781〕）

挿2-6 敦煌莫高窟第384窟 前室北側 天王像鬼神（盛唐〔712～781〕）

挿2-7 龍門石窟韓氏洞 前室北壁 天王像、同鬼神（唐・龍朔元年〔661〕）

挿2-8 龍門石窟敬善寺洞 北壁 天王像、同鬼神（唐・7世紀後半）

挿2-9 龍門石窟奉先寺洞 北壁・南壁 二天像、同鬼神

正壁仏台座 神将像、同鬼神（唐・上元2年〔675〕）

挿2-10 龍門石窟万仏洞 前壁南側 天王像、同鬼神（唐・永隆元年〔680〕）

挿2-11 龍門石窟龍華寺洞 東壁 天王像、同鬼神（唐・7世紀後半）

挿2-12 龍門石窟奉南洞鬼神 西壁天王像鬼神・東壁 天王像、同鬼神（唐・天授元年〔690〕頃）

挿2-13 龍門石窟極南洞 西壁 天王像、同鬼神（唐・景龍4年〔710〕）

挿2-14 龍門石窟八作司洞 南下方 天王像鬼神（唐・開元18年〔730〕頃）

挿2-15 四川省成都市出土 石造釈迦諸尊像、同鬼神（梁・普通4〔523〕銘）

挿2-16 神徳寺石函四天王像多聞天、同鬼神（隋・仁寿4年〔604〕）（拓本）

挿2-17 大慈恩寺大雁塔初層門框線刻神将像鬼神（唐・永徽4年〔653〕）（拓本）

挿2-18 「大唐三蔵聖教序碑」および「同序記碑」神将像、同鬼神（唐・永徽4年〔653〕）

挿2-19 法門寺地宮出土八重宝函四天王像（唐・咸通14年〔873〕）（描き起こし、陝西省考古研究院他『法門寺考古発掘報告書』所収）

挿2-20 蘇州市瑞光寺四天王木函四天王像鬼神（北宋・大中祥符6年〔1013〕）

挿2-21 鞏県石窟 優填王像龕 神将像鬼神（乾封年間〔666～686〕）

挿2-22 感恩寺址西三層石塔 舍利容器外函 四天王像鬼神・瑞獸（統一新羅・神文王2年〔682〕頃）

挿2-23 感恩寺址東三層石塔 舍利容器外函 四天王像鬼神・瑞獸

（統一新羅・神文王2年〔682〕頃）

挿2-24 石窟庵四天王像鬼神（統一新羅・7世紀後半または750年代）

挿2-25 遠願寺址東三層石塔 四天王像、同鬼神（統一新羅・8世紀）（描き起こしは筆者による）

挿2-26 遠願寺址西三層塔石塔 四天王像、同鬼神（統一新羅・8世紀）（描き起こしは筆者による）  
（統一新羅・8世紀）

挿2-27 国立慶州博物館石塔部材 四天王像、同鬼神（統一新羅・8世紀）  
（描き起こしは筆者による）

挿2-28 国立慶州博物館石塔部材 四天王像、同鬼神（統一新羅・8世紀）  
（描き起こしは筆者による）

挿2-29 皇竜寺址西塔石塔 四天王像、同鬼神（統一新羅・9世紀）（描き起こしは筆者による）

挿2-30 雲門寺四天王石柱 四天王像、同鬼神（統一新羅・10世紀）

挿2-31 慶北大学校博物館石造浮屠 四天王像、同鬼神ほか（高麗・10世紀）  
（描き起こしは筆者による）

挿2-32 思惱寺址出土梵刹四天王鈴 四天王像、同鬼神（高麗・11世紀）

挿2-33 報徳寺蔵伽耶寺址石燈 四天王像、同鬼神（高麗・11世紀）（描き起こしは筆者による）

挿2-34 龍門石窟賓陽中洞 窟門通道南側 梵天像鬼神（北魏・正光4年〔523〕頃）

挿2-35 「四天王像緑釉埴」神将像全図（3Dスキャン）、同鬼神（緑釉塑像片） その1、その2、  
その3（統一新羅・文武王19年〔679〕頃）

挿2-36 万仏溝北崖善跏弥勒洞 西壁 天王像、同邪鬼（唐・7世紀末～8世紀初め頃）

挿2-37 四川省邛崃石筍山石窟第28号龕 毘沙門天像、同邪鬼（唐・8世紀後半）

### 第三章

挿3-1 法隆寺金堂阿弥陀三尊像台座板絵四天王像、同邪鬼（7世紀）

挿3-2 玉虫厨子宮殿正面扉二天王像、同邪鬼（7世紀）

挿3-3 大阪・四天王寺金堂四天王像（『別尊雜記』所収、12世紀、原像7世紀）

挿3-4 大阪・大聖軍寺四天王像、同邪鬼（12世紀）

挿3-5 滋賀・常楽寺蔵絹本着色釈迦如来及四天王像（13世紀）

挿3-6 法門寺地宮出土八重宝函 四天王像広目天鬼神（唐・咸通14年〔873〕）（描き起こし、陝西省  
考古研究院他『法門寺考古発掘報告書』所収）

挿3-7 「四天王像緑釉埴」その2神将像全図（統一新羅・文武王19年〔679〕頃）

（描き起こし、国立中央博物館編「영원한 생명의 울림 : 통일신라 조각= Echoes of life : the  
enduring tradition unified Silla sculpture（永遠の生命なる響き 統一新羅彫刻）」所収）

挿3-8 東京藝術大学蔵天王像邪鬼（7世紀後半）

挿3-9 法隆寺橘夫人念持仏厨子絵四天王像（7世紀末頃）（描き起こし、東京美術学校編『法隆寺大  
鏡』18所収）

挿3-10 正倉院宝物漆金銀絵仏龕扉絵神将像（8世紀）（描き起こし、正倉院事務所編『正倉院の絵  
画』宮内庁蔵版、日本経済新聞社、1968年6月所収）

挿3-11 奈良・東大寺戒壇堂四天王像 持国天、増長天、広目天、多聞天邪鬼（8世紀中頃）

挿3-12 奈良・薬師寺金堂本尊台座 異形像（8世紀）

- 挿3-13 「四天王像緑釉埴」神将像鬼神 その1/その3（統一新羅・文武王19年〔679〕頃）
- 挿3-14 愛媛・如法寺毘沙門天像邪鬼（8世紀後半）
- 挿3-15 紙本白描東大寺戒壇院厨子扉絵図、四天王像持国天（12世紀、原本、天平勝宝7年〔755〕、奈良国立博物館蔵）
- 挿3-16 「四天王像緑釉埴」鬼神（統一新羅・文武19年〔679〕頃）／法隆寺橘夫人念持仏厨子絵四天王像邪鬼（8世紀）（描き起こし、東京美術学校編『法隆寺大鏡』18所収）
- 挿3-17 京都・仁和寺蔵宝珠函納入板絵四天王像、同邪鬼（10世紀）
- 挿3-18 福島・勝常寺四天王像（9世紀）
- 挿3-19 広島・古保利薬師堂四天王像、同邪鬼 その1、その2、その3（9世紀）
- 挿3-20 炳靈寺石窟第64窟 北壁 天王像鬼神（唐・7世紀後半～8世紀初め）
- 挿3-21 洛陽博物館蔵天王俑鬼神（唐）
- 挿3-22 奈良・法隆寺新堂四天王像、同邪鬼（11世紀前半）
- 挿3-23 京都・浄瑠璃寺四天王像、同邪鬼（12世紀）
- 挿3-24 京都・宝生院毘沙門天像、同邪鬼（12世紀）
- 挿3-25 『別尊雜記』卷47所収四天王像、同邪鬼（12世紀）
- 挿3-26 愛知・七寺二天像、同邪鬼（仁安年間〔1166～1169〕頃、ただし焼失）
- 挿3-27 兵庫・大乘寺四天王像、同邪鬼（永長2年〔1097〕、智円作）
- 挿3-28 東京・浅草寺宝蔵門四天王像、同邪鬼（13世紀末頃）
- 挿3-29 神奈川・岡田美術館蔵四天王像、同邪鬼（13世紀第3・4半期）
- 挿3-30 京都・海住山寺四天王像、同邪鬼（建保2年〔1214〕頃）
- 挿3-31 奈良・東大寺勸進所阿弥陀堂四天王像、同邪鬼（13世紀半ば前後）
- 挿3-32 和歌山・慈尊院四天王像（14世紀）
- 挿3-33 岐阜・長瀧寺四天王像、同邪鬼（13世紀半ば前後）
- 挿3-34 アメリカ・フリーア美術館蔵四天王像（14世紀）
- 挿3-35 旧浄瑠璃寺吉祥天厨子絵四天王像（建暦2年〔1212〕）
- 挿3-36 ボストン美術館蔵四天王像、同邪鬼（建長5年〔1253〕頃、重命筆）
- 挿3-37 東大寺灌頂堂四天王像持国天、同邪鬼（平安時代後期）
- 挿3-38 奈良国立博物館蔵広目天、同邪鬼（平安時代後期～鎌倉時代）

## 第二部

### 第四章

参考図版：奈良・西大寺四王堂四天王像、同邪鬼（8世紀後半）

四天王像本体

参4-1 全身正面

持国天邪鬼

参4-2 全身正面



参 4-3 全身左側面

参 4-4 全身背面

参 4-5 全身右側面

增長天像邪鬼

参 4-6 全身正面

参 4-7 全身左側面

参 4-8 全身背面

参 4-9 全身右側面俯瞰

広目天像邪鬼

参 4-1 0 全身正面

参 4-1 1 全身背面

参 4-1 2 全身右側面

多聞天邪鬼

参 4-1 3 全身正面

参 4-1 4 全身左側面

#### 挿図

挿 4-1 西大寺四王堂四天王像持国天邪鬼 右前肢

挿 4-2 西大寺四王堂四天王像增長天邪鬼 右拳

挿 4-3 西大寺四王堂四天王像広目天邪鬼 右拳

挿 4-4 西大寺四王堂四天王像多聞天邪鬼 左拳

挿 4-5 大阪・四天王寺金堂四天王像（『別尊雜記』所収、12 世紀、原像 7 世紀）

挿 4-6 奈良・法隆寺金堂四天王像增長天（7 世紀）

挿 4-7 滋賀・常樂寺所蔵絹本著色釈迦如来及四天王像（13 世紀）

挿 4-8 大阪・大聖勝軍寺四天王像增長天（12 世紀）

挿 4-9 西大寺四王堂四天王像 残片

挿 4-1 0 奈良・唐招提寺金堂四天王像增長天（8 世紀後半）

挿 4-1 1 多宝塔埵仏（唐・永徽年間〔650～655〕）

挿 4-1 2 山口・周防国分寺四天王像、同邪鬼（9～10 世紀）

資料 1 西大寺四王堂四天王像・邪鬼の持物構成（現状と復元案）

資料 2 藤原是公官歴

#### 第五章

参考図版：京都・東寺講堂四天王像（承和 6 年〔839〕または同 11 年〔844〕）

四天王本体

参 5-1 全身正面

#### 挿図

挿 5-1 東寺講堂四天王像增長天右方邪鬼

- 挿5-2 奈良・東大寺戒壇堂四天王像増長天邪鬼（8世紀中頃）
- 挿5-3 興福寺東金堂四天王像増長天邪鬼（9世紀初め）
- 挿5-4 東寺講堂四天王像増長天左方邪鬼
- 挿5-5 興福寺東金堂四天王像持国天邪鬼（9世紀初め）
- 挿5-6 太元帥法本尊 太元帥明王像（三十六臂）、同鬼神（正和2年〔1313〕、賢信筆）
- 挿5-7 太元帥法本尊 毘沙門天像、同鬼神（正和2年〔1313〕、賢信筆）
- 挿5-8 東寺講堂四天王像増長天左方邪鬼
- 挿5-9 東寺兜跋毘沙門天像、同地天女・二鬼（唐・8世紀）
- 挿5-10 京都国立博物館蔵『興福寺曼荼羅図』（講堂）（12世紀～13世紀）
- 挿5-11 比叡山延暦寺四天王像（11世紀後半～12世紀前半）
- 挿5-12 善水寺四天王像増長天邪鬼（正暦4年〔993〕頃）および比叡山延暦寺四天王像持国天邪鬼（11世紀後半～12世紀前半）／善水寺四天王像広目天邪鬼および比叡山延暦寺四天王像広目天邪鬼
- 挿5-13 山形・立石寺毘沙門天像、同邪鬼（9世紀）
- 挿5-14 法門寺地宮中室・後室扉四天王像（8世紀後半～9世紀前半頃）
- 挿5-15 法門寺地宮出土八重宝函四天王像（唐・咸通14年〔873〕）（描き起こし、陝西省考古研究院他『法門寺考古発掘報告書』所収）

## 第六章

参考図版：奈良・當麻寺金堂四天王像、同邪鬼（7世紀後半）

四天王像本体

参6-1 全身正面

持国天邪鬼

参6-2 全身正面

参6-3 全身左側面

参6-4 全身左斜背面

参6-5 全身右側面俯瞰

増長天邪鬼

参6-6 全身正面

参6-7 全身左側面

参6-8 全身背面

参6-9 全身右側面

広目天邪鬼

参6-10 全身正面

参6-11 全身右斜正面

多聞天邪鬼

参6-12 全身正面

## 挿図

挿6-1 法隆寺金堂阿弥陀三尊像台座板絵四天王像邪鬼（7世紀）

挿6-2 玉虫厨子宮殿正面扉絵二天王像邪鬼（7世紀）

挿6-3 奈良・法隆寺大講堂四天王像持国天邪鬼（正暦元年〔990〕頃）

（参考）當麻寺金堂四天王像持国天邪鬼 全身左斜背面

挿6-4 當麻寺西南院尼藍婆・毘藍婆坐像（10世紀）

挿6-5 京都・北野天満宮鬼神像（10世紀後半頃）

挿6-6 瘤に刻み目、鑿跡表現の表現

挿6-7 滋賀・延暦寺四天王像広目天（10世紀）

挿6-8 感恩寺址東塔舍利外函持国天像鬼神（統一新羅・神文王2年〔682〕頃）

挿6-9 万仏溝北崖善跏弥勒洞西壁天王像鬼神（7世紀末～8世紀初め頃）

挿6-10 感恩寺址西塔舍利外函多聞天像鬼神（統一新羅・神文王2年〔682〕頃）

## 第三部

### はじめに

挿7-1 蘇州市瑞光寺四天王木函四天王像鬼神（北宋・大中祥符6年〔1013〕）

挿7-2 旧浄瑠璃寺吉祥天厨子絵四天王像広目天邪鬼（建暦2年〔1212〕）

挿7-3 奈良・東大寺真言院地藏堂四天王像（弘安3年〔1280〕）

### 第七章

参考図版：當麻寺金堂四天王像多聞天、同邪鬼

多聞天像本体

参7-1 全身正面

多聞天邪鬼

参7-2 全身左斜正面

参考図版：寂照院四天王像、同邪鬼（建保5年〔1217〕、院能作）

四天王像本体

参7-3 全身正面

持国天邪鬼

参7-4 全身正面

参7-5 全身背面

参7-6 面部正面

増長天邪鬼

参7-7 全身正面

広目天邪鬼

参7-8 全身正面俯瞰

多聞天邪鬼

参 7-9 全身正面

#### 挿図

挿 7-4 當麻寺金堂四天王像多聞天 全身正面・背面 スケッチ

(『日本美術院彫刻等修理記録』II 所収)

挿 7-5 法隆寺金堂阿弥陀三尊像台座板絵四天王像邪鬼 (7 世紀)

挿 7-6 玉虫厨子宮殿正面扉絵二天王像邪鬼 (7 世紀)

挿 7-7 『別尊雜記』卷 4 7 所収の四天のうち南天、西天、北天邪鬼 (12 世紀)

挿 7-8 旧浄瑠璃寺吉祥天厨子絵四天王像増長天、広目天、多聞天邪鬼 (建暦 2 年 [1212])

挿 7-9 ポストン美術館蔵四天王像持国天、増長天邪鬼 (建長 5 年 [1253] 頃、重命筆)

挿 7-10 東大寺灌頂堂四天王像持国天邪鬼 (平安時代後期)

挿 7-11 奈良国立博物館蔵広目天像邪鬼 (平安時代後期から鎌倉時代)

挿 7-12 奈良・興福寺天燈鬼立像、竜燈鬼立像 (建保 3 年 [1215]、康弁作)

挿 7-13 京都・大報恩寺羅刹像 (13 世紀)

挿 7-14 東京国立博物館蔵 (奈良・内山永久寺 (廢寺) 真言堂旧蔵) 四天王南方天眷属像 (文永 4 年 [1267]、康円作)

## 第八章

参考図版：静岡・願成就院毘沙門天像、同邪鬼 (文治 2 年 [1186]、運慶作)

毘沙門天本体

参 8-1 全身正面

同邪鬼

参 8-2 全身正面

参 8-3 全身左斜側面

参 8-4 全身背面

参 8-5 全身右斜側面

参 8-6 俯瞰

参 8-7 像底

参考図版：東京国立博物館蔵 (川端家旧蔵) 毘沙門天像、同邪鬼 (応保 2 年 [1162])

毘沙門天本体

参 8-8 全身正面

同邪鬼

参 8-9 全身正面

参 8-10 全身背面

参 8-11 俯瞰

参 8-12 像底

参考図版：東京藝術大学蔵毘沙門天像、同邪鬼（貞応3年〔1224〕、肥後別当定慶作）  
毘沙門天本体

参8-1 3 全身正面

同邪鬼

参8-1 4 全身正面

参8-1 5 全身左側面

参8-1 6 全身背面

参8-1 7 全身右側面

参8-1 8 顔面左斜側面

参考図版：高知・雪蹊寺毘沙門天像、同邪鬼（嘉祿元年〔1225〕、湛慶作）

毘沙門天本体

参8-1 9 全身正面

同邪鬼

参8-2 0 全身正面

参8-2 1 全身左側面

参8-2 2 全身背面

参8-2 3 全身右側面

## 挿図

挿8-1 願成就院毘沙門天像邪鬼 左方右前肢先

挿8-2 四川省邛崃石筍山石窟第28号龕毘沙門天像鬼神（唐・8世紀後半）

挿8-3 山形・立石寺毘沙門天像、同邪鬼（9世紀）

挿8-4 メトロポリタン美術館蔵（パークコレクション）毘沙門天像、同邪鬼（12世紀末～13世紀初）

挿8-5 大阪・四天王寺金堂四天王像（『別尊雜記』所収、12世紀、原像7世紀）

挿8-6 滋賀・延暦寺四天王像広目天、同邪鬼（10世紀）

挿8-7 大阪・大聖勝軍寺四天王像、同邪鬼（12世紀）

挿8-8 奈良・法隆寺上堂四天王像広目天邪鬼（文和4年〔1355〕）

挿8-9 和歌山・慈尊院四天王像広目天邪鬼（14世紀）

挿8-1 0 京都・安楽寿院蔵『阿弥陀聖衆来迎図』（12世紀）

挿8-1 1 福井・羽賀寺毘沙門天像、同邪鬼（治承2年〔1178〕）

挿8-1 2 福井・羽賀寺千手観音菩薩像（長寛3年〔1165〕、肥前講師勝巖作）

挿8-1 3 福井・羽賀寺不動明王像（12世紀）

挿8-1 4 東京国立博物館蔵（川端家旧蔵）毘沙門天像左方邪鬼（応保2年〔1162〕）

挿8-1 5 高知・雪蹊寺毘沙門天像邪鬼 眉小孔（嘉祿元年〔1225〕、湛慶作）

挿8-1 6 兵庫・大覚寺毘沙門天像、同邪鬼（13世紀）

挿8-1 7 福井・清雲寺毘沙門天像、同邪鬼（13世紀）

挿8-1 8 千葉・弘法寺四天王像、同邪鬼（13世紀）

挿8-1 9 龍門石窟奉先寺洞二天王像多聞天鬼神（上元2年〔675〕）

挿8-20 安西榆林窟第15窟前室南壁 南方天王像、同鬼神（唐・766～835年頃）

挿8-21 法門寺地宮殿出土八重宝函四天王像広目天鬼神（唐・咸通14年〔873〕）（描き起こし、陝西省考古研究院他『法門寺考古発掘報告書』所収）

挿8-22 石窟庵四天王像増長天鬼神（統一新羅・7世紀後半または750年代）

挿8-23 ボストン美術館蔵四天王像多聞天邪鬼（建長5年〔1253〕頃、重命筆）

挿8-24 太元帥法本尊 毘沙門天像鬼神（正和2年〔1313〕、賢信筆）

## 第九章

参考図版：和歌山・慈尊院四天王像、同邪鬼（14世紀）

持国天像本体

参9-1 全身正面

参9-2 全身右側面

参9-3 全身左側面

参9-4 全身背面

参9-5 全身左斜側面

同邪鬼

参9-6 全身正面

参9-7 全身左側面

参9-8 全身背面

参9-9 全身右側面

増長天像本体

参9-10 全身正面

参9-11 全身右側面

参9-12 全身左側面

参9-13 全身背面

参9-14 全身左斜側面

同邪鬼

参9-15 全身正面

参9-16 全身左側面

参9-17 全身背面

参9-18 全身右側面

広目天像本体

参9-19 全身正面

参9-20 全身右側面

参9-21 全身左側面

参9-22 全身背面

参9-2 3 全身左斜側面

同邪鬼

参9-2 4 全身正面

参9-2 5 全身左側面

参9-2 6 全身背面

参9-2 7 全身右側面

多聞天像本体

参9-2 8 全身正面

参9-2 9 全身右側面

参9-3 0 全身左側面

参9-3 1 全身背面

参9-3 2 全身左斜側面

同邪鬼

参9-3 3 全身正面

参9-3 4 全身左側面

参9-3 5 全身背面

参9-3 6 全身右側面

参考図版：アメリカ・フリーア美術館蔵四天王像（14世紀）

持国天像本体

参9-3 7 全身正面

同邪鬼

参9-3 8 全身正面

参9-3 9 全身背面

増長天像本体

参9-4 0 全身正面

同邪鬼

参9-4 1 全身正面

参9-4 2 全身背面

広目天像本体

参9-4 3 全身正面

同邪鬼

参9-4 4 全身正面

参9-4 5 全身背面

多聞天像本体

参9-4 6 全身正面

同邪鬼

参9-4 7 全身正面

参9-4 8 全身背面

## 挿図

挿9-1 和歌山・金剛峯寺四天王像（12世紀～13世紀初め）

挿9-2 慈尊院増長天像 裙裾部分

挿9-3 慈尊院広目天像 裳裾縁

挿9-4 慈尊院持国天像 裳裾表外区

挿9-5 慈尊院増長天像 裳裾表外区

挿9-6 慈尊院広目天像 裳裾表外区

挿9-7 慈尊院多聞天像 裳裾表外区

挿9-8 神奈川・岡田美術館蔵四天王像（13世紀第3・4半期）

挿9-9 岐阜・長瀧寺四天王像（13世紀半ば前後）

挿9-10 奈良・法隆寺上堂四天王像（文和4年〔1355〕）

挿9-11 慈尊院持国天像 袴

挿9-12 東京・浅草寺宝蔵門四天王像持国天 裙裏側（13世紀末頃）

挿9-13 慈尊院増長天像邪鬼 頭部

挿9-14 慈尊院広目天像邪鬼 臀部

挿9-15 慈尊院増長天像邪鬼 持物（蛇）

参考：人間の耳（耳図は水野敬三郎『ミズノ先生の仏像のみかた』所収）

挿9-16 慈尊院像 左側頭部

挿9-17 慈尊院像 面部正面

挿9-18 京都・海住山寺四天王像（建保2年〔1214〕頃）

挿9-19 奈良・東大寺戒壇院千手堂四天王像、同邪鬼（文永6年〔1269〕頃）

挿9-20 奈良・薬師寺東院堂四天王像（正応2年〔1289〕）

挿9-21 東京・浅草寺宝蔵門四天王像（13世紀末頃）

挿9-22 奈良・東大寺勸進所阿弥陀堂四天王像（13世紀半ば前後）

挿9-23 法隆寺上堂持国天邪鬼（文和4年〔1355〕）／フリーア美術館蔵持国天邪鬼（14世紀）

挿9-24 法隆寺上堂増長天邪鬼（文和4年〔1355〕）／フリーア美術館蔵増長天邪鬼（14世紀）

挿9-25 法隆寺上堂広目天像邪鬼 作拳小孔

挿9-26 静岡・願成就院毘沙門天像邪鬼（文治2年〔1186〕、運慶作）

挿9-27 法隆寺上堂像 面部

挿9-28 フリーア美術館蔵増長天像 面部

挿9-29 興福寺所蔵古写真

資料1 大仏殿様四天王像邪鬼

資料2 胸甲（鬼面）・帯喰（有脚の龍頭）

## 結論

挿10-1 三重・市場寺四天王像持国天、同邪鬼（11世紀）



挿10-2 愛知・普門寺四天王像多聞天、同邪鬼（12世紀）

## 参考図版・挿図出典

### 第一部

#### 第一章

挿 1-1

東京藝術大学美術学部芸術学科第四研究室所蔵。

挿 1-2

泉武夫「神徳寺石函の図様表現と特色」(加島勝研究代表『隋唐時代の  
仏舍利信仰と莊嚴に関する総合的調査研究』所収。基盤研究(B)研究  
成果報告書、平成二一〜平成二三年度、二〇一二年三月)。

挿 1-3

筆者撮影。

#### 第二章

挿 2-1、挿 2-3

敦煌文物研究所編『中国石窟 敦煌莫高窟』二(平凡社、一九八一年六月)。

挿 2-2

趙声良執筆、大沼淳・樊錦詩監修、岡田健・劉永增編『敦煌石窟』五(文  
化学園・文化出版局、二〇〇一年九月)。

挿 2-4、挿 2-5、

楊雄執筆、大沼淳・樊錦詩監修、岡田健・劉永增編『敦煌石窟』六(文化  
学園・文化出版局、二〇〇二年三月)。

挿 2-6

敦煌文物研究所編『中国石窟 敦煌莫高窟』三(平凡社、一九八一年一二  
月)。

挿 2-7、挿 2-9、挿 2-18、挿 2-21

筆者撮影。

挿 2-8、挿 2-10、挿 2-11、挿 2-12、挿 2-13、挿 2-14、挿 2-34、  
挿 2-36

龍門文物保管所・北京大学考古学系編『中国石窟 龍門石窟』二(平凡社、  
一九八八年八月)。

挿 2-15

田辺勝美、前田耕作責任編『世界美術大全集』東洋編一五 中央アジア(小  
学館、一九九三年三月)。

挿 2-16

泉武夫「神徳寺石函の図様表現と特色」(加島勝研究代表『隋唐時代の  
仏舍利信仰と莊嚴に関する総合的調査研究』所収。基盤研究(B)研究  
成果報告書、平成二一〜平成二三年度、二〇一二年三月)。

挿 2-17

王子雲編『中国古代石刻画選集』(中国古典芸術出版社、一九五七年七月)。

挿 2-19

陝西省考古研究院他『法門寺考古発掘報告書』(北京、文物出版社、二〇〇  
七年四月)。

挿 2-20

中国美術全集編輯委員会編『中国美術全集』絵画編二 隋唐五代絵画(人  
民美術出版社、一九八四年九月)。

挿 2-22、挿 2-23、挿 2-27、挿 2-28、挿 2-31

東京藝術大学美術学部芸術学科第四研究室所蔵。描き起こしは筆者による。

挿 2-24

黄寿永編『石窟庵・韓国慶州』(河出書房新社、一九九一年一月)。

挿 2-25、挿 2-26、挿 2-29

筆者撮影。描き起こしは筆者による。

挿2-30

<http://www.heritage.go.kr/heri/cul/culSelectDetail.do?ccbaOpno=1123703180000#> (最終検索日: 二〇一九年一月)。

挿2-32

国立濟州博物館編「金属工芸に込められた高麗人の生活」(ソウル、二〇一一年四月)。

挿2-33 佐藤有希子氏より提供。描き起こしは筆者による。

挿2-35

国立慶州文化財研究所・国立慶州博物館編「四天王寺」(慶尚北道、二〇〇九年五月)。

挿2-37

中国美術全集編輯委員会編『中国美術全集』彫塑編一二 四川石窟彫塑(人民美術出版社、一九八八年六月)。

### 第三章

挿3-1

奈良国立博物館、法隆寺、朝日新聞社編『国宝 法隆寺金堂展』(朝日新聞社、二〇〇八年六月)。

挿3-2

上原和『玉虫厨子 飛鳥・白鳳美術様式論』(吉川弘文館、一九九一年一月)。

挿3-3、挿3-25

『大正新脩大藏経図像』三(大正新脩大藏経刊行会、一九三二年一月)。

挿3-4

奈良国立博物館編『国宝信貴山縁起絵巻―朝護孫子寺と毘沙門天王信仰の至宝―』(奈良国立博物館、二〇一六年四月)。

挿3-5

岩田茂樹「法隆寺金堂四天王立像・補遺」『MUSEUM』六三三、二〇〇九年一月)。

挿3-6

陝西省考古研究院他『法門寺考古發掘報告書』(北京、文物出版社、二〇〇七年四月)。

挿3-7、挿3-13、挿3-16

国立慶州文化財研究所・国立慶州博物館編「四天王寺」(慶尚北道、二〇〇九年五月)。

挿3-8、挿3-19、挿3-27、挿3-32

東京藝術大学美術学部芸術学科第四研究室所蔵。

挿3-9、挿3-16

東京美術学校編『法隆寺大鏡』一八(南都七大寺大鏡發行所、一九二四年八月)。

挿3-10

三宅久雄「正倉院宝物漆金銀絵仏龕扉の復元的考察」(『正倉院紀要』二〇、一九九八年三月)。

挿3-11

東京藝術大学美術学部芸術学科第四研究室所蔵。

- 挿3-1-2 猪川和子「邪鬼と地天女」(『日本美術工芸』三二二、一九六四年九月)。
- 挿3-1-4 岩田茂樹「『資料紹介』愛媛・如法寺 木心乾漆造毘沙門天立像」(『MUSEUM』六七六、二〇一八年一〇月)。
- 挿3-1-5 「重要文化指定名称：紙本白描東大寺戒壇院扉絵図」(e国宝 国立博物館所蔵 国宝・重要文化財 [http://www.emuseum.jp/detail/100140]、最終検索日二〇一九年八月三日)。
- 挿3-1-7 東京国立博物館ほか編『空海と密教美術』(読売新聞社ほか、二〇一一年七月)。
- 挿3-1-8 大矢邦宣、藤森武『別冊太陽 日本のこころ2000 みちのくの仏像 東北のカミになった仏たち』(平凡社、二〇一二年一〇月)。
- 挿3-2-0 甘肅省文物工作隊、炳靈寺文物保管所編『中国石窟 炳靈寺石窟』(平凡社、一九八六年六月)。
- 挿3-2-1 筆者撮影。
- 挿3-2-2 『奈良六大寺大観』四 法隆寺四(岩波書店、一九七一年五月)。
- 挿3-2-3 『大和古寺大観』七 海住山寺 岩船寺 浄瑠璃寺(岩波書店、一九七八年八月)。
- 挿3-2-4 京都国立博物館編『院政期の仏像 定朝から運慶へ』(岩波書店、一九九二年七月)。
- 挿3-2-6 文化庁編『戦災等による焼失文化財―昭和・平成の文化財過去帳―新訂増補』(戎光祥出版、二〇一七年六月)。
- 挿3-2-8 浅草寺什宝研究会編『浅草寺什宝目録』一 彫刻編(金龍山浅草寺、二〇一八年七月)。
- 挿3-2-9 山本勉・和田圭子「新出の大仏殿様四天王像について」(『国華』一一八六、一九九四年九月)。
- 挿3-3-0 東京国立博物館ほか編『運慶 興福寺中金堂再建記念特別展』(朝日新聞社、テレビ朝日、二〇一七年九月)。
- 挿3-3-1 岩田茂樹「大仏殿様四天王像に関する覚書―東大寺勸進所阿弥陀堂像の紹介をかねて」(『MUSEUM』六二二、二〇〇八年二月)。
- 挿3-3-3 奥健夫「長瀧寺蔵四天王立像」(『国華』一二二二、一九九六年一〇月)。
- 挿3-3-4

<https://www.freerackler.si.edu/?paged=3&s=four&col1=ection->

[area=japanese-art&search\\_context=object&post\\_type=tms\\_object\(最終](#)

検索日二〇一九年二月二五日)。

挿3-35

東京藝術大学美術館ほか編『興福寺国宝展 鎌倉復興期のみほとけ』  
(朝日新聞社、二〇〇四年九月)。

挿3-36

東京国立博物館ほか編『ボストン美術館 日本美術の至宝』(NHK、NHKプロモーション、二〇一二年三月)。

挿3-37

東大寺教学部編『東大寺諸尊像の修理』(毎日新聞社、一九九四年九月)。

挿3-38

奈良国立博物館編『なら仏像館名品図録 2016』(奈良国立博物館、二〇一六年四月)。

## 第二部

参4-1

『奈良六大寺大観』一四 西大寺全(岩波書店、一九七三年五月)。

参4-2(参4-14)

東京藝術大学美術学部芸術学科第四研究室蔵。

挿4-1(挿4-4)

東京藝術大学美術学部芸術学科第四研究室蔵。

挿4-5

『大正新脩大蔵経図像』三(大正新脩大蔵経刊行会、一九三二年一月)。

挿4-6

奈良六大寺大観刊行会編『奈良六大寺大観』二 法隆寺二(岩波書店、一九六八年四月)。

挿4-7

岩田茂樹「法隆寺金堂四天王立像・補遺」(『MUSEUM』六二(三)、一〇〇九年十二月)。

挿4-8

奈良国立博物館編『国宝信貴山縁起絵巻―朝護孫子寺と毘沙門天王信仰の至宝』(奈良国立博物館、二〇一六年四月)。

挿4-9

『奈良六大寺大観』一四 西大寺全(岩波書店、一九七三年五月)。

挿4-10

『奈良六大寺大観』一三 唐招提寺二(岩波書店、一九七二年二月)。

挿4-11

松原三郎『中国仏教彫刻史論』(吉川弘文館、一九九五年一月)。

挿4-12

山口県立美術館編『平成大修理完成記念 周防国分寺展―歴史と美術―』(山口県立美術館、二〇〇四年六月)。

## 第五章

参5-1、

丸尾彰三郎ほか編『日本彫刻史基礎資料集成』平安時代―重要作品篇一(中央公論美術出版、一九七三年七月)。

挿5-1、挿5-4

丸尾彰三郎ほか編『日本彫刻史基礎資料集成』平安時代 重要作品篇一（中央公論美術出版、一九七三年七月）。

挿5-2

東京藝術大学美術学部芸術学科第四研究室所蔵。

挿5-3、挿5-5

『奈良六大寺大観』八 興福寺二（岩波書店、一九七〇年一二月）。

挿5-6、挿5-7

サントリ―美術館ほか編『京都・醍醐寺―真言密教の宇宙―』（日本経済新聞社、二〇一八年九月）。

挿5-8

水尾比呂志『邪鬼の性』（淡交新社、一九六七年七月）。

挿5-9

東京国立博物館ほか編『空海と密教美術』（読売新聞社ほか、二〇一一年七月）。

挿5-10

東京藝術大学美術館ほか編『興福寺国宝展 鎌倉復興期の御仏』（朝日新聞社、二〇〇四年九月）。

挿5-11、挿5-12

大津歴史博物館編『比叡山―みほとけの山―』（大津歴史博物館、二〇一五年一〇月）。

挿5-12

挿5-13

『栗東歴史民俗博物館紀要』七（栗東歴史民俗博物館、二〇〇一年三月）。

長坂一郎「山形・立石寺根本中堂木造毘沙門天立像について」（『MUSEUM』六一八、二〇〇九年二月）。

挿5-14、挿5-15

陝西省考古研究院他『法門寺考古發掘報告書』（北京、文物出版社、二〇〇七年四月）。

## 第六章

参6-1、参6-2、参6-3、参6-6、参6-7、参6-10、参6-12

『大和古寺大観』二 当麻寺所収（岩波書店、一九七八年一二月）。

参6-4、参6-5、参6-8、参6-9

東京藝術大学美術学部芸術学科第四研究室所蔵。

参6-11、

水尾比呂志『邪鬼の性』（淡交新社、一九六七年七月）。

挿6-1

奈良国立博物館、法隆寺、朝日新聞社編『国宝 法隆寺金堂展』（朝日新聞社、二〇〇八年六月）。

挿6-2

上原和『玉虫厨子 飛鳥・白鳳美術様式論』（吉川弘文館、一九九一年一月）。

挿6-3

『奈良六大寺大観』二（法隆寺二、岩波書店、一九六八年四月）。東京藝術大学美術学部芸術学科第四研究室所蔵。

挿6-4

奈良国立博物館編『當麻寺 極楽浄土へのあこがれ』（奈良国立博物館、読売新聞社、二〇一三年四月）。

挿6-5

伊東史朗「木造鬼神像」（『国華』一三三八、二〇〇七年四月）。

挿6-6

水尾比呂志『邪鬼の性』（淡交新社、一九六七年七月）。東京国立博物館ほか編『空海と密教美術』（読売新聞社ほか、二〇一一年七月）。

挿6-7

塚本善隆『天台の秘宝・比叡山』（講談社、一九七一年四月）。

挿6-6、挿6-8、挿6-10

東京藝術大学美術学部芸術学科第四研究室所蔵。

挿6-9

龍門文物保管所・北京大学考古学系編『中国石窟 龍門石窟』二（平凡社、一九八八年八月）。

### 第三部

はじめに

挿7-1

中国美術全集編輯委員会編『中国美術全集』絵画編二 隋唐五代絵画（人民美術出版社、一九八四年九月）。

挿7-2

東京藝術大学大学美術館ほか編『興福寺国宝展 鎌倉復興期のみほとけ』

（朝日新聞社、二〇〇四年九月）。

挿7-3

東大寺教学部『東大寺諸尊像の修理』（毎日新聞社、一九九四年九月）。

### 第七章

参7-1

『大和古寺大観』二 当麻寺所収（岩波書店、一九七八年二月）。

参7-2

水尾比呂志『邪鬼の性』（淡交新社、一九六七年七月）。

参7-3

水野敬三郎ほか編『日本彫刻史基礎資料集成』鎌倉時代 造像銘記篇三（中央公論美術出版、二〇〇五年三月）。

参7-4、9

東京藝術大学美術学部芸術学科第四研究室所蔵。

挿7-4

奈良国立文化財研究所編『日本美術院彫刻等修理記録』II（奈良国立文化財研究所、一九七九年三月）。

挿7-5

奈良国立博物館、法隆寺、朝日新聞社編『国宝 法隆寺金堂展』（朝日新聞社、二〇〇八年六月）。

挿7-6

上原和『玉虫厨子 飛鳥・白鳳美術様式論』（吉川弘文館、一九九一年二月）。

挿7-7

『大正新脩大藏經図像』三(大正新脩大藏經刊行会、一九三二年一月)。

挿7-8

東京藝術大学美術館ほか編『興福寺国宝展 鎌倉復興期のみほとけ』

(朝日新聞社、二〇〇四年九月)。

挿7-9

東京国立博物館ほか編『ポストン美術館 日本美術の至宝』(NHK、NHKプ

ロモーション、二〇一二年三月)。

挿7-10

『奈良六大寺大観』一〇 東大寺二(岩波書店、一九六八年八月)

挿7-11

奈良国立博物館編『なら仏像館名品図録 2016』(奈良国立博物館、

二〇一六年四月)。

挿7-12

『奈良六大寺大観』八 興福寺二(岩波書店、一九七一年二月)。

挿7-13

東京国立博物館、読売新聞社編『京都・大報恩寺 快慶・定慶のみほとけ』

(読売新聞社、二〇一八年一〇月)。

挿7-14

Image:TM Image Archives.

副島弘道編『関東の仏像』(大正大学出版会、二〇一二年三月)。

参8-2、参8-3、参8-5、参8-6、参8-11、参8-12

筆者撮影。

参8-13、18

東京藝術大学美術学部芸術学科第四研究室所蔵。

参8-4

東京藝術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻保存修復彫刻室より提供。

参8-8

山本勉『別冊太陽 仏像 日本仏像史講義』(平凡社、二〇一三年二月)。

参8-9、10

Image:TM Image Archives.

参8-19

山本勉責任編『日本美術全集』七 鎌倉・南北朝時代I 運慶・快慶と中世

寺院(小学館、二〇一三年二月)。

参8-20、23

中村志野氏より提供。

挿8-1

筆者撮影。

挿8-2

中国美術全集編輯委員会編『中国美術全集』彫塑編一二 四川石窟彫塑(人民美術出版社、一九八八年六月)。

挿8-3

## 第八章

参8-1、参8-7



長坂一郎「山形・立石寺根本中堂木造毘沙門天立像について」〔MUSEUM〕  
六一八、二〇〇九年二月）。

挿8-4

日本経済新聞社編『ニューヨーク・パーク・コレクション展 日本の美三  
千年の輝き』（日本経済新聞社、二〇〇五年）。

挿8-5

『大正新脩大藏経図像』三（大正新脩大藏経刊行会、一九三二年一月）。

挿8-6

塚本善隆『天台の秘宝・比叡山』（講談社、一九七一年四月）。

挿8-7

奈良国立博物館編『国宝信貴山縁起絵巻・朝護孫子寺と毘沙門天王信仰の  
至宝』（奈良国立博物館、二〇一六年四月）。

挿8-8

『奈良六大寺大観』二（法隆寺二）（岩波書店、一九六八年四月）。

挿8-9

東京藝術大学美術学部芸術学科第四研究室蔵。

挿8-10

中野玄三『来迎の美術』（同朋舎出版、一九八五年四月）。

挿8-11

丸尾彰三郎ほか編『日本彫刻史基礎資料集成』平安時代 造像銘記篇四（中  
央公論美術出版、一九六七年四月）。

挿8-12、13

鷲塚泰光編『日本の美術』二三三、若狭・丹後の仏像（至文堂、一九八四年  
一二月）。

挿8-14

Image: TMM Image Archives.

挿8-15

中村志野氏より提供。

挿8-16

兵庫県立歴史博物館編『ひょうごの美ほとけ―五国を照らす仏像』（特別展  
「ひょうごのみほとけ」実行委員、二〇一七年四月）。

挿8-17

洞口寛「福井・大飯町 清雲寺 木造毘沙門天尊像 作風に関する序論的  
考察」（『東北芸術工科大学紀要』一二、二〇〇五年三月）。

挿8-18

千葉市美術館編『仏像半島―房総の美しき仏たち』（千葉市美術館・美術館  
連絡協議会、二〇一三年四月）。

挿8-19

龍門文物保管所・北京大学考古学系編『中国石窟 龍門石窟』二（平凡社、  
一九八八年八月）。

挿8-20

敦煌研究院編『中国石窟 安西榆林窟』（平凡社、一九九〇年一〇月）。

挿8-21

陝西省考古研究院他『法門寺考古発掘報告書』（北京、文物出版社、二〇〇  
七年四月）。

挿8-22

黄寿永編『石窟庵―韓国慶州』（河出書房新社、一九九一年一月）。

挿8-23

東京国立博物館ほか編『ポストン美術館 日本美術の至宝』(NHK、NHKプロモーション、二〇一二年三月)。

挿8-24

サントリー美術館ほか編『京都・醍醐寺―真言密教の宇宙―』(日本経済新聞社、二〇一八年九月)。

## 第九章

参9-11参9-36

東京藝術大学美術学部芸術学科第四研究室蔵。

参9-37参9-48

[https://www.freersackler.si.edu/?paged=3&s=four&collection-area=japanese-art&search\\_context=object&post\\_type=tms\\_object](https://www.freersackler.si.edu/?paged=3&s=four&collection-area=japanese-art&search_context=object&post_type=tms_object)  
(最終検索日二〇一九年二月二五日)。

挿9-1

奈良国立博物館編『快慶 日本人を魅了した仏のかたち』(奈良国立博物館、読売新聞社、読売テレビ、二〇一七年四月)。山本勉責任編『日本美術全集』七 鎌倉・南北朝時代I 運慶・快慶と中世寺院(小学館、二〇一三年二月)。

挿9-2参9-7、11、13参9-17

東京藝術大学美術学部芸術学科第四研究室蔵。

挿9-8

山本勉・和田圭子「新出の大仏殿様四天王像について」(『国華』一一八六、一九九四年九月)。

挿9-9

奥健夫「長瀧寺蔵四天王立像」(『国華』一二二二、一九九六年一〇月)。  
挿9-10、23、24  
『奈良六大寺大観』二 法隆寺(岩波書店、一九六八年四月)。

挿9-12、挿9-21

浅草寺什宝研究会編『浅草寺什宝目録』一 彫刻編(金龍山浅草寺、二〇一八年七月)。

参考

水野敬三郎『ミズノ先生の仏像のみかた』(講談社、二〇一九年二月)。

挿9-18

東京国立博物館ほか編『運慶 興福寺中金堂再建記念特別展』(朝日新聞社、テレビ朝日、二〇一七年九月)。

挿9-19

神奈川県立金沢文庫編『東大寺 鎌倉再建と華嚴興隆』(神奈川県立金沢文庫、二〇一三年一〇月)。

挿9-20

水野敬三郎ほか編『日本彫刻史基礎資料集成』鎌倉時代 造像銘記篇一四(中央公論美術出版、二〇一八年二月)。

挿9-22

岩田茂樹「大仏殿様四天王像に関する覚書―東大寺勧進所阿弥陀堂像の紹介をかねて」(『MUSEUM』六一二、二〇〇八年二月)。

挿9-23、24

[https://www.freersackler.si.edu/?paged=3&s=four&collection-area=japanese-art&search\\_context=object&post\\_type=tms\\_object](https://www.freersackler.si.edu/?paged=3&s=four&collection-area=japanese-art&search_context=object&post_type=tms_object)  
(最終検索日二〇一九年二月二五日)。

挿 9-25

水尾比呂志『邪鬼の性』（淡交新社、一九六七年七月）。

挿 9-26

筆者撮影。

挿 9-27

奈良国立博物館編『室町時代仏像彫刻 在銘作品による』（学芸書林、一九七一年二月）。

挿 9-28

倉田文作責任編『在外日本の至宝』八 彫刻（毎日新聞社、一九八〇年七月）。

挿 9-29

山口隆介・宮崎幹子「明治時代の興福寺における仏像の移動と現所在地について―興福寺所蔵の古写真をもちいた史料学的研究―」（『MUSEUM』六七六、二〇一八年一〇月）。

## 結論

挿 10-1

久野健編『日本の仏像 近畿』仏像集成七（学生社、一九九七年一二月）。

挿 10-2

久野健編『日本の仏像 中部』仏像集成二（学生社、一九九二年一月）。